論文タイトル

* ―　サブタイトル（和文）―日本語フォントは游明朝を、欧文フォントはCenturyを使用する。
* タイトルのフォントサイズは16ポイント、サブタイトルのフォントサイズ12ポイントとする。

氏名　西田　幾多郎

（所属）　◯◯大学

Title

―　Subtitle（欧文）―

Name　Nishida Kitaro

(Affiliation)　 ◯◯University

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

* 和⽂論⽂には、200語程度の英文要旨を、英語論⽂には、200字程度の和⽂要旨をここに書くこと。
* 英文要旨の書き始めは、半角5マス分あけること。
* キーワード・keywordのフォントサイズは12ポイントとする。
* keywordsに英語以外の外国語での原語が含まれる場合は、単語の後に（独）（仏）（伊）などの語を加える。

keywords ５つ程度

キーワード５つ程度

**１（章番号・章タイトル）**

（1）（節番号・節タイトル）

　以下、本文。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（2）（節番号・節タイトル）

　以下、本文。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

* 日本語フォントは游明朝を、欧文フォントはCenturyを使用する。
* フォントサイズは本文12ポイント、注は10ポイントとする。
* 章番号・章タイトルは12ポイントの太字とする。
* 必要な場合、節番号・節タイトルを加えることができる。その場合は、（1）（2）…のように番号を振る。なお、文字ポイントは12とし、太字にはしない。
* 行間は1.15に設定する。
* 節と節との間は1行あける。
* 章と章との間は2行あける。

**２（章番号・章タイトル）**

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯　◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯（1:1）。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯[[1]](#footnote-1)。

* 新段落は、1字下げにする。
* 長文を直接引用する場合は、引用部分を全体的に2字下げして表記する。
* 長い引用文のあとは、1字下げにする。
* 注は脚注を使用する。文末脚注は使用しない。脚注で文献を挙げる場合は、「引用・参考文献一覧」での表記に準ずること。

**引用・参考⽂献⼀覧**

秋富克哉「作るということ――創造的純粋経験からの展開」『理想』第681号、2004年、1〜10頁。

西田幾多郎『善の研究』、『西田幾多郎全集』、第1巻、岩波書店、2003年。

* 略号を使⽤して引⽤例を短縮する場合は、略号について説明する凡例を添える (例: 本文では、1: 1と表記する)。

Heidegger, Martin. *Grundprobleme der Phänomenologie*, *Gesamtausgabe,* Bd.58, Frankfurt. a. M. 2010.

Kopf, Gereon. “The Self-Identity of the Absolute Contradictory What?: Reflections on How to Teach the Philosophy of Nishida Kitarō.” *Teaching Texts and Contexts: The Art of Infusing Asian Philosophies and Religions*. Eds.: David Jones, Ellen Klein. Albany: SUNY Press, 2010. pp.129-148.

**表記の仕方について**

1. 数字
* 年号やページ数を表示する場合は、算用数字とする。ただし、文献からの引用等で漢数字が求められる場合は、この限りではない。
1. 原語
* 本文や注の、引用文以外の箇所において、原語を添える必要が生じた場合、括弧に入れて原語を添える。

　　　　例　フィヒテはこれを知的直観（intellektuelle Anschauung）という

1. 括弧
* 文末に閉じ括弧が来る場合には、句点（。）は閉じ括弧の外に置く。

例　×「宗教とは神と人との関係である。」

○「宗教とは神と人との関係である」。

* 本文中に原語の言葉や引用を引く場合は、それぞれの言語に固有な括弧で表記する。たとえば、英語では“　　” 、ドイツ語では„　　“、フランス語では、«　　　»などとする。
1. ダッシュ（――）の使用
* 挿入や、書名の副題などを示すためにダッシュを使用する場合には、全角ダッシュを２つ続ける。

　　例　虚偽――それは、積極的ではないにしても――。

　　　　『西田幾多郎――同時代の記録』

1. 引用省略
* 中間を略する時は〔中略〕、または〔……〕で省略箇所を明示する。
1. 文献
* 文献については、下記「引用・参考文献一覧」を参照のこと。
* 邦語文献の場合、書名や定期刊行物名は『　　』で、論文名は「　　」でかこむ。
* 外国語文献の場合、書名や定期刊行物名はイタリックにし、また論文名は“ ” でかこむ。
1. 引用・参考文献一覧
* 邦文のものは著者・編者の五十音順、邦文のものは同じくアルファベット順とする。
* 邦文と欧文がある場合は、邦文を先に、欧文を後にする。
1. Web情報
* 参考文献ないし脚注でWeb情報を表示する場合は、参考文献を挙げる場合に準じて文献情報を提示した上で、当該のURLを挙げること。

　　　例　竹花洋佑「種の自己否定性と「切断」の概念」、京都大学大学院文学研究科日本哲学史研究室紀要、『日本哲学史研究』、第12巻、2015年、82-107頁。<http://hdl.handle.net/2433/250621>: 閲覧日2025年9月4日。

1. ◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。 [↑](#footnote-ref-1)